

# 陸上自衛隊

## CONTENTS

004 **LRRP**  
レッツ カミーアップ!  
**Let's Cammie up!**  
迷彩服が俺たちのフォーマル by Jay Borman

014 第11回 **サイゴン物語** Saigon Memories  
リバーパトロールボートと  
ベトナムZIPPO

018 **Black Iron Horse**  
at **NAM**  
戦場を駆け抜けた黒い塊

055 **月刊 THE グリーンベレー**  
**GREEN BERET**  
AFRICA2017 ●文と写真/DJちゅう

061 **葉隠マッチ M-8** ●Report by Tomo Hasegawa  
**HAGAKURE Match M-8 2019**

066 **Militaria Roundup!**  
**陸軍航空隊の航空被服と装備 Part 1**

072 **東京マルイ ガスブローバック**  
**89式 折曲銃床型**

078 **トイガンニュース**  
●タナカ S&W M13 3INCH FBI SPECIAL (HW Ver.3)  
●タナカ コルトパイソン.357マグナム4インチ"Rモデル"(スチールフィニッシュ)  
●WA ポプチャウスベシャルVer1.5(ピンテージエディション)

- 030 陸上自衛隊Ver2.0.0へアップデート 陸自大改編を追う!!
- 034 日本版海兵隊、ここに誕生! 水陸機動団
- 038 陸自で最も過酷な訓練を実施! レンジャー
- 044 陸自戦車列伝! 日本を守る戦車図鑑
- 048 サバゲ三等兵 自衛隊特集便乗企画! 教えてレンジャーテクニク



081 **WESTERN ARMS**  
コルト・ガバメントMkIV  
シリーズ'70《シルバー》

085 **WESTERN ARMS**  
SVインフィニティ  
《スピード・コンプRタイプ》

088 **NEW GENERATION STYLER** by fujiwara

098 **BATESタクティカルブーツ**  
2019最新モデル OPS10, RAID Lo & Mid  
●Report by Tomo Hasegawa

108 **シネマ小噺** [スターちよい役時代図録編]

## COMBAT FRONT LINE

- 052 第2回 APIO主催 —ジムサバ開催—
- 053 新作映画紹介「米軍が最も恐れた男 カメジロー不屈の生涯」  
「ピータールー マンチェスターの悲劇」
- 054 353SOG隷下の新部隊、横田での活動を開始!
- 096 新製品てんこ盛り! COMBAT mono
- 104 サバゲ三等兵APS部 すみだ公式&第29回本大会スペシャル!
- 110 コラム ベトナムを遠く離れて——。文/小倉 徹
- 112 レアミリタリーテクノロジー
- 113 ゲームOTT「コール オブ デューティーWWII」
- 114 USシューティングライフ
- 115 兵装嗜癖
- 116 ツゲチョリ
- 124 PRESENT
- 125 CIC
- 126 バックナンバー
- 127 奥付&次号予告





今だからこそ知るべき!

# 新生 陸上自衛隊

1945年、日本の敗戦により第2次世界大戦は終結。これにより日本はすべての軍事力を失った——。  
しかし、戦後、米ソ対立は激しさを増し、遂に“代理戦争”とも言われる朝鮮戦争が勃発。  
アメリカは日本に再軍備化を求め、1950年警察予備隊が創設された。

そして、1954年7月1日——。

防衛庁発足と共に、陸・海・空自衛隊がスタートを切った。それから75年の月日が経た現在——。  
昭和から平成、そして令和へと時代が変わったように今、まさに陸上自衛隊も生まれ変わろうとしている。

外に目を向ければ中国の覇権主義、北朝鮮の核・弾道ミサイル開発、  
そして日本国内に目を向ければ、いつか必ず起こると言われている南海地震や首都直下型地震……。  
数え上げればきりが無いほどの脅威がある。

日本の危機に立ち向かい、国民の生命と財産を守るため、あらゆる脅威に挑む、新生・陸上自衛隊。  
改編の時を迎えた、誇り高き“俺たち”の自衛隊に本誌連載「ニッポンの力こぶ」でもお馴染み  
軍事フォトジャーナリスト、菊池雅之が迫る大特集!

写真・文／菊池雅之



陸上自衛隊Ver2.0.0へアップデート

# 陸自大改編を追う!!

今まさに陸上自衛隊は大改編の最中だ。これから5年程度の歳月をかけ、いくつもの部隊が誕生し、または廃止され、まったく新しい陸上自衛隊を作り上げていく事になる。ここまでの大改編は陸自創設以来初。次のバージョンへと進化する陸自に注目せよ!



## 大改編、その理由に菊池雅之が迫る!

陸上自衛隊は創設以来最大規模となる大改編を実施している。

第2次世界大戦が終わり、米ソが対立する中で防衛庁・自衛隊は発足した。そこから、陸自は東西冷戦対処型の部隊を編成し装備を配備していった。

その当時、陸自が目指したのが「基盤的防衛力」の構築だった。日本列島を5つに区切り、北部方面隊、東部方面隊、東部方面隊、中部方面隊、西部方面隊を置いた。各方面隊は、方面総監がまとまる。その下に、師団や旅団といった作戦基本部隊を編成

し、がっちり日本領土を守る体制を築き上げた。

時を経て、1989年。冷戦はあっけなく終結した。さらにテロとの戦いの時代へと突入。それに合わせて、これまでの「基盤的防衛力」に加えて、国内でテロが発生した際は、必要な

部隊が必要な場所へと迅速に展開させる「動的防衛力」へと戦略を改める事にした。

21世紀になり加速度的に進んだのが、自衛隊の統合運用だ。これまで、別組織として機能していた陸海空自衛隊をまとめるべく、2006年3月27

日、統合幕僚監部が発足した。

2013年「平成26年度以降に係る防衛計画の大綱について(25大綱)」が閣議了承される。これにより、新たに打ち出されたのが「統合機動防衛力」という戦略だ。

ここから陸自は、海空自衛隊との統合運用を深め、部隊の機動力を上

まで通り日本を侵略者から守る点は変わらない。それに加え、島嶼防衛やミサイル防衛、グレーゾーン事態対処を含めた自衛隊の新しい任務が明記された。

ここから陸自は、海空自衛隊との統合運用を深め、部隊の機動力を上

げ、コンパクト化を目指していく事になる。

最初に着手したのが、陸自をまとめる総司令部となる「陸上総隊」の創設だ。トップとなる陸上総隊司令官は、5つの方面隊を一元的に指揮できる。そして海自の「自衛艦隊」

高速道路を疾走する第15即応機動連隊の16式機動戦闘車。新しい陸自に求められているもの、それは機動展開能力の速さだ。

空自の「航空総隊」と横軸で繋がる事になり、統合運用が進む。

新しい「陸上総隊司令部」であるが、イチから作ったわけではなく、2007年3月28日に創設された「中央即応集団」が母体となる。「中央即応集団」が拡大改編され「陸上総隊」





(写真大) 日本最北の戦車部隊である第2戦車連隊の10式戦車による射撃シーン。同部隊は、10式戦車、90式戦車、74式戦車と3世代の戦車を配備する日本唯一の(教育部隊を除く)戦車部隊だ。  
(写真右) 圧倒的な機動力も10式戦車の特徴だ。



車体に擬装を施し、森の中に静かにたたずむ。こうした動と静が戦車の戦い方となる。

**spec**

- 全長 9.42m
- 全幅 3.24m
- 全高 2.30m
- 重量 44t
- 速度 70km/h
- 装甲 複合装甲+増加装甲(砲塔側面)
- 主砲 44口径120mm滑腔砲
- 副武装 7.62mm機関銃 12.7mm重機関銃
- エンジン 水冷4サイクルV型8気筒ディーゼル
- 乗員 3名

# 10式戦車

陸自戦車列伝!

日本を守る

# 戦車図鑑

**“戦うコンピューター”との異名を持つハイテク戦車!**

10式戦車の特徴は、90式戦車までに培った技術に加え、ネットワーク化、ハイテク化を取り入れた事。これまで各戦車間の連絡は無線を通じて行っていたのだが、これを完全ネットワーク化した。今は10式戦車間だけのネットワークであるが、今後は各装甲車や隊員個人ともつなぎ、より効率的な戦闘を追究していくという。

車内にはモニターが置かれ、画面には仲間の戦車の残弾数や残燃料までも表示される。小隊長は、モニターに地図を呼び出すと、敵が潜んでいる場所をまるで、タブレット端末を操作するかのよう感覚で、指でタップ。さらに親指と人差し指で広げて検索開始。

これまで通り、敵を発見した戦車が直接攻撃する事だけでなく、小隊長が指示した戦車が攻撃する事もできる。それもコンピューターが自動的に敵に一番近い戦車を割り出して、

原付バイクのハンドルのようにっており、手元にアクセルとブレーキがある。フットペダルはない。また自家用車ではお馴染みのCVT(無段変速機)となっており、変速時のショックがないため、スラロームしながら射撃も可能となった。

74式戦車の後継として開発されたものの、総入れ替えはしない。さらに自衛隊の戦略変更を受け、当初の配備予定よりもぐっと少なくなる計画だ。





# LRRP

## Let's Cammie up!

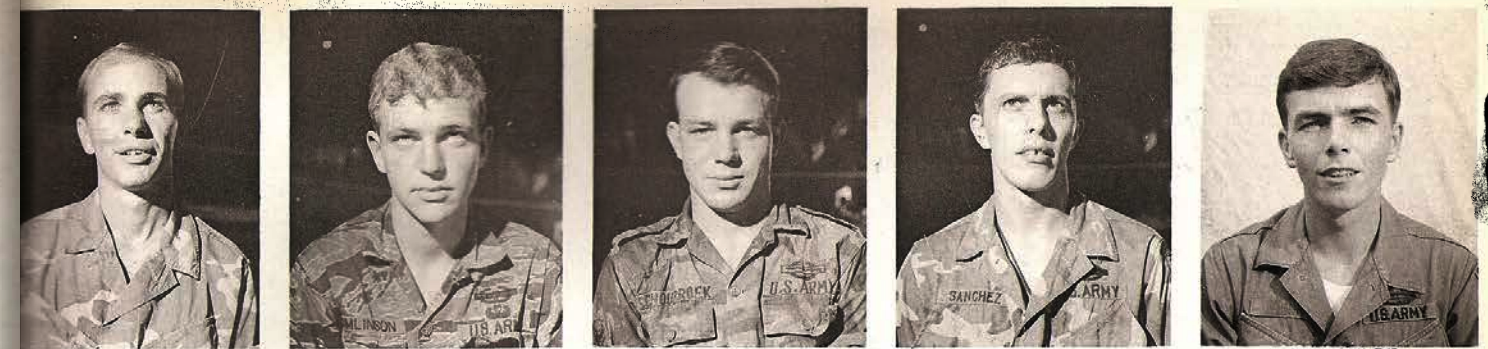
レッツ カミーアップ!

### 迷彩服が俺たちのフォーマル

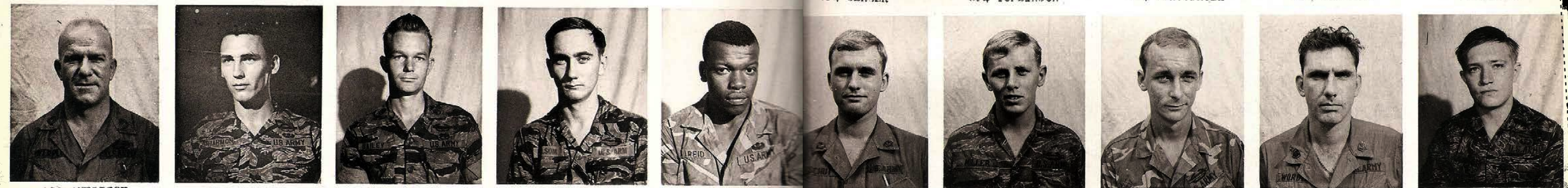
主力部隊の代わりに少人数で敵地に侵入し、情報収集や破壊工作を行う長距離偵察部隊はLRRPと呼ばれ、限定支給品の迷彩服を着用する特権を持っている。危険な任務に欠かせないこの服をLRRPは親しみを込めてカミーズと呼び、いつしか出撃前のカモフラージュを女性のメイクアップになぞらえたカミーアップという言葉が生まれた。独自のファッションと確かな腕でベトナムでは敵味方の双方に恐れられたLRRPを紹介するシリーズ、今回は第199軽歩兵旅団の特集です。レッツ、カミーアップ!!

by Jay Borman 構成/鈴木健太郎 コーディネート/河村喜代子

第199軽歩兵旅団SSIを模した標識と、MACVリーコンドー記事が描かれた看板が並ぶ第71歩兵分遣隊 (LRP) のオフィス。ベトナムで戦うために急遽編成されたこの旅団は「レッドキャッチャーズ」という愛称を持っていた。



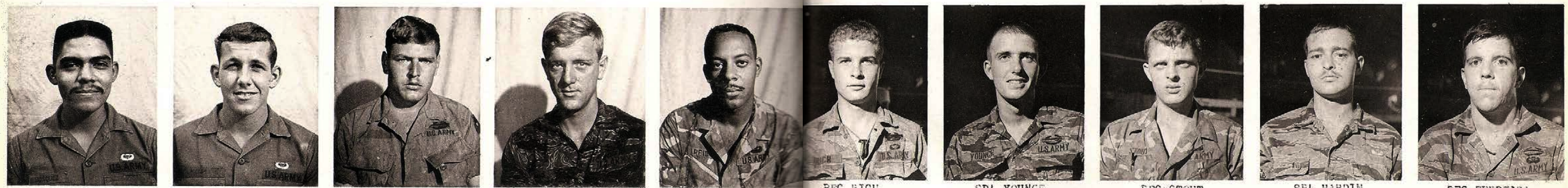
SP4 GERBER SP4 TOMLINSON SP4 SCHOU BROEK SP4 SANCHEZ SP4 MACK



1SG OVERPECK SSG HARMON SSG BAILEY SSG FULSON SSG WRIGHT SP4 SCHUT SP4 MILLER SP4 SIEBERT SP4 WORDEN PFC ARTHUR



SGT EARIS SGT WELTY SGT MARK SGT KALLEN SGT DAVIS PFC FULTON PFC TAFOLIA SP4 ROSADORAMOS PFC DEVERAUX PFC WIDEMAN



SGT BOSQUEZ SGT MEANS SP4 WYATT SP4 WARD SP4 REID PFC RICH SP4 YOUNCE PFC STOUT SP4 HARDIN PFC FERREIRA



PFC EDWARDS SP4 GROOM SP4 DESHAN SP4 WARNEY SP4 GRIFFIS PFC ACVILAR SP4 NOWHINTER PFC HALL PFC CARDWELL PFC FISHER

1967年のイヤーブックに収められた第71歩兵分遣隊 (LRP) の偵察隊員たち。補給の事情が本人の好みかは分からないが、彼らの着る迷彩服は官給品のERDLに定番のタイガーストライプ、さらに南ベトナム軍モデルと実にバラエティ豊かで、自前の服が用意出来なかったのか仲間の迷彩服を来ている者までいる。左肩のバッジは第199軽歩兵旅団SSIとLONG RANGE PATROLと刺繍されたタブの組み合わせで、空挺資格を持つ隊員は一番上にエアボーンタブを追加している。



第11回  
サイゴン物語 Saigon Memories

# リバーパトロールボートと ベトナムZIPPO

強風下でも、一発で必ず火がつく。ジッポーは信頼のライターだった。  
そんなライターの決めぜりふが「イット・ワークス」だった。  
ベトナム戦争では、兵士たちといつでも、ともにある道具の一つだった。  
それとはまた別に、兵士たちがジッポーと呼ぶものがあった。  
ブラウンウォーターネービーが、河川哨戒艇に搭載した火炎放射器のことである。

文 / コンパットマガジン編集部 Text/CM Editorial Staff  
写真 / 今井今朝春、WPPコレクション Photo/Kesaharu Imai, WPP Collection



Photo/U.S. Navy



1969年1月1日。ベトナム最南部のデルタ地帯にて。河川哨戒艇に搭載した火炎放射器で、対岸のブッシュを焼き払う。この火炎放射器を、兵士たちは「ジッポー」と呼んでいた。炎を直接、敵に浴びせるというよりは、茂みに隠れた敵をあぶり出すのが目的だ。敵のいる場所が特定できたら、ヒューイに連絡して、空から攻撃をする。川のなかほどのところに停船している哨戒艇は、デルタ最南部を流れるクアロン川で、敵が水中に敷設した機雷の除去作業中である。内陸部の河川や沿岸地域で作戦を行なう部隊が、ブラウンウォーターネービーである。

Photo/U.S. Navy

# River Patrol Boat Vietnam ZIPPO



Photo/U.S. Navy



ブラックアイアンホース

# Black Iron Horse at NAM

## 戦場を駆け抜けた黒い塊

1965年の初め、ウェストモラント将軍はダナン飛行場の安全確保と南ベトナム軍を支援するために2個の海兵大隊の上陸チームを要請した。これを受けて3月8日、第3海兵旅団は、ダナン・レッド・ビーチ2にM48A3とともに上陸した。

構成・画 M. Kelly

M561 Gama Goat

ベトナム戦争用に開発された車輦で、6輪駆動のオフロード・カー。

M48A3の上陸後、

第3水陸両用軍を含む

第1、第3海兵師団がそれに続き、ダナン飛行場の防衛を強化した。8月になると北ベトナム軍が、ダナン南東部のチュライ飛行場を攻撃する準備をしているとの情報が入った。これを阻止するためにヘリコプター、戦車小隊と3個の大隊チームを使った水陸両用の海上作戦が開始された。これはベトナム上陸後、初めての大規模な作戦となる。激しい戦闘は2日間続き、北ベトナム軍は包囲を解き撤退した。

第1海兵師団を中心とした介入後初の本格的軍事作戦「オペレーション・スターライト」の後、海兵隊は南ベトナム軍に沿岸警備を押しつけ内陸部に移動する。海兵隊の戦車部隊は、海兵歩兵部隊を支援し続け、最終的には2個の海兵装甲大隊となり、ケ・サン、フエの戦いに参戦。北部非武装地

M67 "Zippo"

アメリカ陸軍がベトナム戦争で使った最後の火炎放射器戦車。

M109 155mm SPH

1962年から生産され、アメリカ陸軍および海兵隊で使った自走砲。





### Tomo長谷川

イチロー永田氏に30年前より師事。共に自衛隊、警察の特殊部隊で訓練指導をしている。実戦で役立つ構えや射撃法、移動法など踏まえた訓練を実施。安全かつ最大の効果を発揮する技術を得意とする。実銃射撃競技の世界大会に30年出場し続け、アメリカの各種戦術訓練プログラムに参加し修練を重ねる。シュアファイアの公認インストラクターの資格を持つ。“テロリストハンター”マイク エイジャックス氏、映画『ブラックホーク・ダウン』のモデルとなった“モガディシオの英雄”ボウルハウ氏、「サンダーランチ」のクリント スミス氏など、数々のタクティカルスクール受講経験がある。格闘、ナイフ、射撃、狙撃、対テロ、人質救出、VIPプロテクション、対バスジャック、車両警護、コンバットメディック、学校&病院警護など。現在も継続中。

葉隠では競技形式の訓練として“葉隠マッチ”を年に一度開催している。実戦で起こりうるカオス、つまり混沌を盛り込んだコース設定が大きな特長だ。要求される動作や技術は普段であれば難しくクリアできることばかり。しかし、本番になるとなぜか思うように身体が動かない…という事は多い。ライトを装備しているのに、点灯するのを忘れ「見えない、見えない！」と焦ってみたり、ターゲットをヒットできなかったり…。マッチのプレッシャーによって、実力が削がれてしまうからだ。一説には集中力が60%以上も減衰するという。戦場で降りかかる精神的重圧を擬似的に体験し克服していくためにも、実戦形式の競技は欠かせない訓練なのだ！

# 葉隠

## 葉隠マッチ M-8【後編】 HAGAKURE Match M-8 2019

実戦において「同じ状況」が繰り返されることはありえない。事前情報を得ていたとしても、不測の事態、事故は必ず発生するもの。また、なんの情報もなく戦闘に入らざるを得ない状況もあるだろう。いかなる事態でも、パニックに陥る事無く対処でき、的確に行動できるか否かが生死を分ける。

Photo & Text by Tomo Hasegawa

びっちょ本人の希望で葉隠マッチ初参戦！

### 戦え!!びっちょり〜な☆

「葉隠マッチに参加させて貰ってもよろしいですか？」

ある日突然、戦え!!びっちょり〜な☆女史(以下、びっちょ)から連絡が来た。サバゲやトイガンイベントで元気な存在感が魅力の彼女。射撃とサバゲが好きで、近頃とくにシューティングにはまっており、その中で葉隠に興味をわいたという。いいものにも参加は個人の自由、出たい!という気持だけで充分大歓迎!

ところが「私の実力で参加してイイものなのか…」と悩んでいたという。確かに同様に考える人は多い。でもそれで臆るのはもったいない!競技は自らの実力を試し合う舞台。優勝の可否だけでなく、強化すべき弱い部分が見出せる“弱点”抽出の場でもある。新たに訓練して捕うべきは何かを知り、それを学ぶことこそ競技に出る意味なのだ。

葉隠参戦の思いを語る彼女の可愛い笑顔に、僕は“強くありたい”という熱意を感じ取った。





**89式折曲銃床型**  
 ●全長:670mm/916mm(ストック伸長時)  
 ●重量:4,000g  
 ●装弾数:20発  
 ●価格:69,984円



**東京マルイ** @東京マルイ ☎03-3605-3312  
<http://www.tokyo-marui.co.jp/>

# ガスブローバック 89式折曲銃床型

**自衛隊の制式小銃である89式小銃。その折りたたみストック・バージョンである89式折曲銃床型がいよいよ発売間近!**

今年(2019年)の静岡ホビーショーにおいて正式リリースが発表されたのが、この東京マルイ ガスブローバックガン89式5.56mm小銃折曲銃床だ! 待ちに待ったと言うファンも多いだろう。小振りで機能を凝縮したようなフォルムがカッコイイ、独特なモデルであると思う。斯く言うデュークも今回発表されたこのガスブロー89式小銃折曲銃床を持っていった東京マルイ・ファンの一入だ。東京マルイよりお借りした量産モデルを勇躍して手にした瞬間、過去の自分に感情が移入して行くのを感じたデュークでしたヨ!

作動方式は既発売の89式小銃固定銃床と同一とのこと。すでに本誌で

もレポート済みですし、メカニズムや作動クオリティ、そして実射性能は巷でも実証済みですね。実銃のレポートだって散々本誌でやりましたし……。なので今回はそのディテール、固定銃床と折曲銃床の相違点、各部の形状、外観などを中心に根掘り葉掘り実個体をイジくり廻しながら検証します。

89式5.56mm小銃は1990年代からの陸上自衛隊の主力火器となった陸自ファンのサブゲーマーやコスプレヤーさんには絶対必須のアイテムですね。またそれだけでなく、陸自装備のサブゲーマーでなくても、そのフォルムが好きとか、小振りなので扱いやすいとして愛用する方々をよく見かけます。女性ファンも多く、人

気の機種である事は間違いありませんし、このインプレッションも責任重大ですね。生半可な事は書けません。気合を入れてまいります。

小銃各部の詳細は写真にてご覧下さい。折曲銃床はもちろん汎用モデルなので、固定銃床と重複する部分もありますが、そこはご了承下さい。デュークの琴線に触れた部位について書きます。各部呼称も自衛隊風に、日本語でいきますのでしっかり書いて来て下さいね!

ではまずは実個体を持った感想から語っていきましょう。

先に記述した通り、持った瞬間感情移入しました。その理由、それはズバリ重さ、そう重量です。イイ感

じなんだこれが。材質等を考え重量バランスを図ったと言う話を聞いていたので納得です。ちょっとライフドリルなんかをやりたい気持ちに、と言いますか当然ブツ撮りの時にスタジオで振り回しましたせ、気分ヨク。剛性もシッカリしているのでサブゲフィールドでの取り廻しも安心感充分でしょう。銃を指向したまま走ったり、負い紐で背中に背負って走ったり、それからハイポートして走ったり、……って走る事ばかりを言ってるけど、走りたくなるでしょうが、これ担いでフィールドに入ったらサア! デュークみたいなオヤジだって走るんだから若いモンはみんなハチキュー持って走れ!! 申し上げた通り外觀も実にリアル

# TYPE 89 Folding Stock Model

前方から見る銃口消炎制退器と銃剣止め。見てこの景色、これが日本の小銃です。消炎制退器は発射の際に銃口炎を消し発射ガス分散指向して銃口を制動し命中精度を上げる装置。

規整子と照星。規整子は作動のための燃焼ガス量を調整するツマミだ。常装弾、減装弾、小銃弾用など、実銃はこの周囲3カ所に目印の小さい穴が開いている。照星も当然エレベーション作動する。





ベイツ社タクティカルブーツに待望のニューモデルが新登場!  
タフで、柔軟で、快適!! BATESブーツ「高性能ヒストリー」が“新章”突入

# BATES TACTICAL BOOTS OPS10/RAIDE Lo/RAIDE Mid

## “強度”&“快適”の新フラッグシップ『OPS10』

USアーミー用ブーツは素材や各部の仕様や製造方法が厳しく指定されていて、「AR670-1 COMPLIANT」証が定められている。今回の新製品“OPS10 (オプス10)”は、この「AR670-1 COMPLIANT」に準じた製品。つまり軍用の基準を満たした性能なのだ。

ギザギザにカットされたアウターがとても印象的だ。

レザー部分の素材は牛革(キャトルハイド)がメイン。牛革は丈夫で優れた耐久性を誇る事で定評のある素材。そして、ビブラム社の軍用ソール仕様である。

細部をチェックしていこう。

アウターのキャトルハイドにはベイツ社独自の“耐摩耗性加工”が施されているという。建物の瓦礫や岩など、戦場にはブーツを傷つけるかも知れない危険物がたくさんある。それらにぶついたり擦れた時にブーツが破けてしまえば身体を護れない。ブーツ外装には、バンパーとしての耐久性が欠かせないのだ。しかし、革が強いだけでは、逆に固くて履き難いものになる。ところが、OPS10は柔軟でとても履きやすい。その秘密はアウターのデザインにあるようだ。キャトルハイド・アウターには随所にカットが設けられ、外観の特長となっている。このカット部分にナイロン生地が組み合わされている。おかげで足首の動きを妨げず、より柔軟にカバーしてくれるのだ。

ナイロン生地には細かな樹脂突起が設けられている。毛羽立ちや断裂、擦れに対して優れた耐久力を発揮する。同社のアフガニスタン対応モデル“アルパインブーツ”と同様の仕様だ。

また、ミッドソールやインソールに、衝撃吸収力と反発力を併せ持つ素材を内蔵。「強さ」だけでなく、アスレチックシューズのような柔軟性と快適な履き心地を実現している。

ハードな仕様になっているが、パンツの裾が被ると、ごつさを感じさせなくなる。強さをさり気なく纏える感じがまた今どきのタクティカル。



大胆なカットが印象的なベイツ社のニューモデル“OPS10”。特殊加工で耐久力を高めたキャトルハイドをアウターに装備し、優れた「強度」を発揮。また、最新素材を各部に配し、スポーツシューズ並みの柔軟さと快適性を実現。「身軽な鎧」とも言うべき新コンセプト。スッキリしたルックス、最新タクティカルブーツの高性能を秘めている。



サイドジップ仕様で、着脱し易い。

ナイロン生地の表面に樹脂の小突起をモールド。耐久力を高める仕様だ。



強いキャトルハイド・アウター。特殊デザインで快適な履き心地を実現!

